

平成30年度 公立大学法人北九州市立大学評価委員会（第3回）議事要旨

1 開催日時：平成30年8月3日（金） 14：40～16：00

2 開催場所：北九州市立大学 ひびきのキャンパス 事務棟4階 第2会議室

3 議事内容

(1) 平成29年度業務の実績報告の質疑応答

(2) 意見交換

ア 大学より説明

- ・認証評価と内部質保証について
- ・『平成30年度年度計画』について

イ 意見交換

○内部質保証について

(委員) 志願者を増やしたい場合、保護者や高校教員、塾の先生などに北九大の良さを知ってもらい、学生に薦めてもらうのが一番早いので、そういう方たちの意見を吸い上げるのが良いと思う。そのような体制はあるのか。

(大学) 基本的には入試広報センターが行っているが、各学部の教員が高校教員とやり取りを行い、教育プログラムの検討を行うなども行っている。また、卒業生や企業の方などの情報も取り入れている。

(委員) 教員からの意見聴取や、教員の活動がどう充実しているかで質が上がっていくと思うが、どのようにしているのか。

(大学) 各教員に自己点検・評価をしてもらい、それに対して、各組織の長が評価する仕組みを作っている。また、学生による授業評価や、各学部での意見交換会を行っている。

○目標の設定について

(委員) 評価を後で受けるということを意識した目標を立てた方がよいのではないか。実施する方にとっても目標が1つの基準となり、また、評価する方にとっても、達成したかがわかりやすくなる。

(大学) 評価する場合は明確なKPIがあるとやりやすいのはそのとおりだが、その一方でインデックス（指標）上に現れない部分もあるので、そこを検討するのも必要だと考えている。

○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針。以下「DP」）について

(委員) 大学が決めた基準をクリアして卒業しても、社会からはわかりにくい。社会にとって、大学が決めた基準をクリアしたことが良かったのかどうか。それを長期的にどうはかるのか。社会の声をどう取

り込むのか。その辺について、何か考えはあるか。

(大学) DPは非常に大きな問題であり、大学としてはDPを定めて、このくらいの能力がついたという形は示せるが、それは大学自らが評価しているだけ。特に文系だと、どういったものがインデックス(指標)として必要なのが難しい。本来は、卒業から10年後、20年後くらいに、大学で勉強したことを生かしているかを見なくてはいけないのかもしれないが、短期間での評価も求められており、内部質保証のプロセスの中でいろいろ試行錯誤しながら検討していかなければならないと考えている。

○社会人教育について

(委員) 18歳に限定しない教育、極端に言えば、40代、50代で4年間通うということを想定した議論はしているか。

(大学) 社会人教育は来年度からと考えているが、現段階では、どの程度ニーズがあるのかということもあり、当面は、実際の学習期間を少し抑えた形でやっていくこととしている。北九州というマーケットの中で、どの程度の社会人の方が学びに来ていただけるのかを、少し考えていきたい。

○若手教員の育成について

(委員) 教員が外部機関と共同で研究しようと考えた場合、テーマの決定や研究費予算などのスケジュール感を教えてほしい。

(大学) 企業からのオファーは、いつでもよい。企業との共同研究や受託研究は、契約締結や企業によっては知財の特許の話などがあり、大体数か月から半年くらいかかることもある。ただ、若手教員が企業と共同研究するのはなかなか難しい。

(委員) 教員の紹介を見ても、何をしている先生なのかわからないことが多い。実績のある先生はわかるが、若手は特に難しい。

(大学) そのため、若手教員の場合は、経験豊富な教員と一緒に研究のフィールドを広げて、共同研究などにも参加しながら独立していく形をとっている。

(委員) 教員が企業と関わる場を大学で作ったりするのか。

(大学) 大学としては行っていない。基本は、教員が研究室のホームページを充実させて、何ができるかを掲載している。また、学研都市内のFAIS(北九州産業学術推進機構)でも各教員がどんなことができるかを企業に向けてPRしている。

(委員) 自分もテーマに合った先生を探すときはFAISに尋ねている。FAISの人たちに若手教員を売り込むのもよいかもしれない。

(大学) FAISに対しては、各教員がPRを出している。企業からはFAIS経由で話が来る場合と、各教員のホームページから来る場合、また技術相談のコーディネーター(URA)から来る場合がある。

(3)「平成29年度に係る評価案」の最終確認、決定